

# 教員養成課程における家庭科の基礎的技能の 指導についての一考察

和田 早苗<sup>1</sup>・宇津野 花陽<sup>1</sup>

## 1 はじめに

家庭科で学ぶ基礎的技能の一つに、調理や被服製作など、ものを「つくる」技能があり、「作れる手」を持つことが具体的なものを自分で実現できる自信や自己肯定感につながるともいわれている<sup>1</sup>。ところが、現代では、子どもたちの生活経験が少なくなっており<sup>2</sup>、以前であれば生活の中で当たり前にならされていた基礎的技能が、小・中・高校生、そして教員を目指す大学生にとっても、十分に習得・定着させることの難しいものになっている<sup>3</sup>。

なかでも、被服製作は、家庭での裁縫の機会が減少したこともあり<sup>4</sup>、小学校から高校までの学習の中で苦手意識を持ちやすく、ネガティブな評価をされることが多い<sup>5</sup>。現行の小学校学習指導要領では、家庭科の4つの単元（A家庭生活と家族、B日常の食事と調理の基礎、C快適な衣服と住まい、D身近な消費生活と環境）のうち、「C快適な衣服と住まい」の「(3)生活に役立つ物の製作」に位置づけられている<sup>6</sup>。

近年、小学校家庭科の指導にあたっては、自治体によって状況は異なるものの、家庭科の専科教員や出張授業による指導が減少し、性別を問わず学級担任が指導することが多くなってきている<sup>7</sup>。つまり、小学校教員に

---

<sup>1</sup>白鷗大学教育学部  
e-mail : swada@fc.hakuoh.ac.jp

なれば家庭科を担当する可能性が高いため、小学校教員養成課程において、技能の習得状況の確認や指導法の検討、苦手意識の克服をしておくことが課題となる。

このような実態をふまえ、2016年度まで小学校教諭一種免許状取得のための必修科目「家庭科教育法」において、限られた授業時間数の中で、まずは手縫いの基礎について、技能の習得とその確認をおこなうとともに苦手意識を克服できるよう、指導方法を検討してきた<sup>8</sup>。検討の結果、学習を通して、大学生が自身の技能を確認し、製作を楽しみ、苦手意識の克服、新たな技能の習得や生活への活用ができるようになってきていると考察された。そこで、2017年度から、同科目において、被服製作実習を小学校で指導するにあたり大学生が不安を感じていることの一つとしてあげられるミシンの基礎的事項についての学習を加えて実施する方法を検討することとした。

ミシンの使い方を初めて学ぶのは小学校家庭科においてであり、小学生の興味・関心は高いことが報告されている<sup>9</sup>。しかし、ミシンの指導においては、機械の扱いや、操作上の技術においてある程度の専門性が必要とされる<sup>10</sup>が、前述のとおり、小学校の家庭科は学級担任が担当することが多くなってきており、教員の専門性が高くないこと、また、ミシンの台数や学習時間数が少ない<sup>11</sup>ことなどから、小学校段階でのミシン操作の定着は十分でない<sup>12</sup>。その結果、大学生が小・中・高の家庭科で感じた「つまずき」の中で最も多いものが「ミシンの使い方」となっており<sup>13</sup>、「上糸を自分でかけたことがない」「下糸巻きをしたことがない」「下糸を引き出す方法が分からない」という大学生の声もしばしばきかれる。また、家庭科の研究指定を受けている小学校の教員でさえミシン指導に不安を抱えているという報告もある<sup>14</sup>。

上記のように、先行研究において、ミシンの指導についての課題が多く指摘されている一方で、ミシンを用いた被服製作実習の初等教員養成課程での指導のあり方については、各大学で様々な工夫して検討されていると

思われるが、管見の限り、あまり記録されていないように思われる。永田他（2015年、2016年）<sup>15</sup>などの研究があるものの、大学によって、施設設備、学生数、学生の技能の実態等が異なるため、より多くの検討を積み重ねることも重要と思われる。そこで、本稿では、先行研究の知見を参考にしつつ、さらに、対象となる学生の実態に合わせ、教員養成課程におけるミシン学習の基礎について検討し、今後の授業改善の一助とすることを目的とする。

## 2 研究の方法

2017年度前期にH大学で開講された小学校教諭一種免許状取得のための必修科目「家庭科教育法」（2単位）において、全15回中3回分の授業（90分×3コマ）を用いて手縫いの基礎、フェルトのカード入れ作成<sup>16</sup>およびミシンの基礎的事項（ミシンの扱い方、下糸の巻き方、上糸のかけ方、糸調子の合わせ方、直線縫い、返し縫い、方向転換の方法）についての学習を実施した。受講生74名（男性33名、女性41名、2クラス分）を対象として、事前にミシンを使用した経験や小学校の家庭科の授業でミシン縫いを担当することに対する不安についてアンケート調査を実施した。また、授業後に小学校の家庭科の授業でミシン縫いを担当することに対する不安の変化について事後アンケート調査を実施した。

## 3 研究の結果

### （1）大学生のミシン縫い経験およびミシン縫いに対する不安について

手縫いおよびミシン縫いの学習をする前にアンケートを実施し、ミシンの使用経験や小学校の家庭科の授業でミシン縫いを担当することに対する不安について尋ねた。（出席者64名〔2クラス分〕）

#### ①ミシンの使用経験の有無

ミシンを使用したことがあるかどうかを尋ねたところ、「ある」と答

えた学生は64名中62名（96.9%）、「ない」と答えた学生は2名（3.1%）であった。

②ミシンを使うことに慣れているか

ミシンを使用したことが「ある」と回答した62名に、ミシンを使うことに慣れているかどうかを「慣れている」「少し慣れている」「どちらともいえない」「あまり慣れていない」「全く慣れていない」の5段階で尋ねたところ、「慣れている」4名（6.5%）、「少し慣れている」10名（16.1%）、「どちらともいえない」14名（22.6%）、「あまり慣れていない」24名（38.7%）、「全く慣れていない」10名（16.1%）であり、半数の学生がミシンを使うことに慣れていないと感じているようであった。

③ミシン縫いを担当することへの不安について

小学校の家庭科の授業でミシン縫いを担当することに対して不安があるかどうかを「かなりある」「少しある」「どちらともいえない」「あまりない」「全くない」の5段階で尋ねたところ、「かなりある」19名（29.7%）、「少しある」30名（46.9%）、「どちらともいえない」9名（14.1%）、「あまりない」5名（7.8%）、「全くない」1名（1.5%）であり、ミシン縫いを担当することに対して大半の学生が不安を感じていることが明らかになった。

④ミシン縫いを担当することへの不安要素

ミシン縫いを担当することに対して不安が「かなりある」「少しある」と回答した49名に、具体的にどのようなことに対して不安があるかどうかを尋ねたところ（複数回答可）、「上糸のかけ方」19名、「下糸の巻き方」27名、「下糸の出し方」29名、「縫い方（直線縫い・返し縫い）」24名、「上糸の調子が強い時・弱い時の糸調子の合わせ方」33名、「ミシンが動かない、縫い目が飛ぶなどのトラブルへの対応の仕方」39名、

「その他」3名（「すべてわからない」「ミシンで以前ケガをしたのでミシン自体にトラウマがある」「使用中にけがをしてしまった時の対応」）であった。これらの結果は、家庭科の限られた授業時間数の中で実習を進めていくために、教員や学習支援ボランティアによって上糸や下糸が既にセッティングされ、糸調子も調整済みのミシンを児童・生徒たちが使う機会が増えていることも影響しているのではないかと推察される。

#### ⑤授業以外でのミシンの使用経験

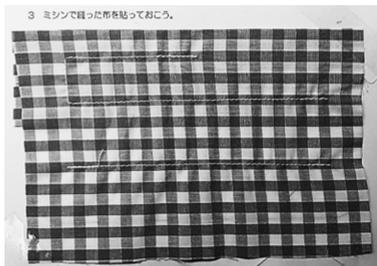
学校の家庭科の授業以外でミシンを使ったことがある場合に、どのような場面で何を作ったのかを自由記述方式で尋ねたところ、33名（51.6%）から回答があり、家で製作したものとして「雑巾」（10名）、「バッグ」（7名）、「エプロン」「ウォールポケット」「衣装（ハロウィン）」「巾着」（2名ずつ）、「ナップザック」「スカート」「ティッシュケース」「ぬいぐるみ」「コースター」「シュシュ」「リボンなどの装飾物」（1名ずつ）が挙げられ、「服が破けたときの補修」（1名）という回答もあった。また、学校の授業での製作実習（エプロン、ナップザック、トートバッグ）の続きを家のミシンで行ったという学生も複数みられた。ミシンを扱った場面として、「クラブ活動で」（1名）「文化祭の出し物に必要」（1名）という回答も挙がった。「家にミシンがあり雑巾やバッグを縫った」、「洋服を作りたいと思ってミシンを買った」という学生もいる一方、家庭科の授業以外でミシンを使用する機会はあまりないことが窺われた。

#### （2）ミシンの操作方法・基礎縫い学習

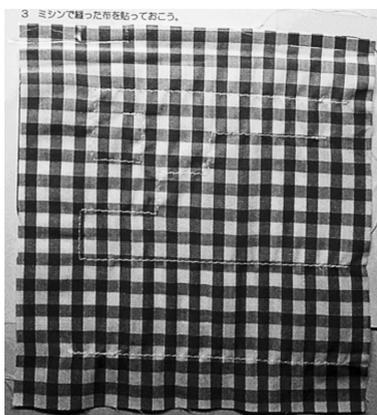
事前アンケートの結果を踏まえた上でミシンの操作方法・基礎縫い学習の内容を考えた。全員が「ボビンに下糸を巻く」「上糸をかける」「下糸を出す」といった準備をして試し縫いをしながら糸の調子を合わせた後に本縫いを行うこととした。本縫いの一本目は直線縫い（両端は返し縫い）、

二本目は途中で方向を転換して自由に縫ったもの（両端は返し縫い）をプリントに貼り付けて3回の授業内で提出させた（図表1・2）。資料としてミシンの使い方・縫い方・トラブルの対処法を入れたプリントを作成して配布した。被服室にはミシンが24台あり、一人一台使用するのではなく小学生のペア学習を意識してお互いに教え合いながら実習を進めていくことを伝えた。また、2回目、3回目の授業でフェルトのカード入れ製作実習と並行してミシン縫いも行えるようにしたところ、下糸の出し方を繰り返し練習する学生や試し縫い用の布を用いて自分の苦手な所を何度も確認する学生が複数みられた。

図表1 学生の作品例1



図表2 学生の作品例2

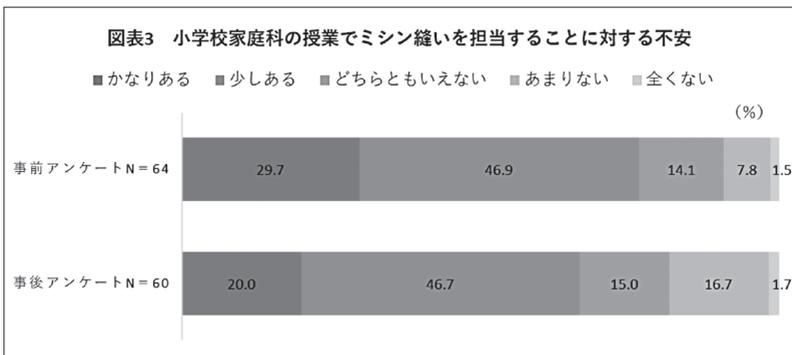


(3) ミシンの操作方法・基礎縫い学習を行って

ミシン縫い学習を行った後で事後アンケートを実施した。(出席者60名  
[2クラス分])

①ミシン縫い学習後のミシン縫いを担当することへの不安について

事前アンケートと同様に小学校の授業でミシン縫いを担当することに対して不安があるかどうかを「かなりある」「少しある」「どちらともいえない」「あまりない」「全くない」の5段階で尋ねたところ、「かなりある」12名(20.0%)、「少しある」28名(46.7%)、「どちらともいえない」9名(15.0%)、「あまりない」10名(16.7%)、「全くない」1名(1.7%)であった。ミシン縫いを担当することに対する不安が「かなりある」「少しある」と回答した学生は、事前アンケートの76.5%より66.7%に減少した。

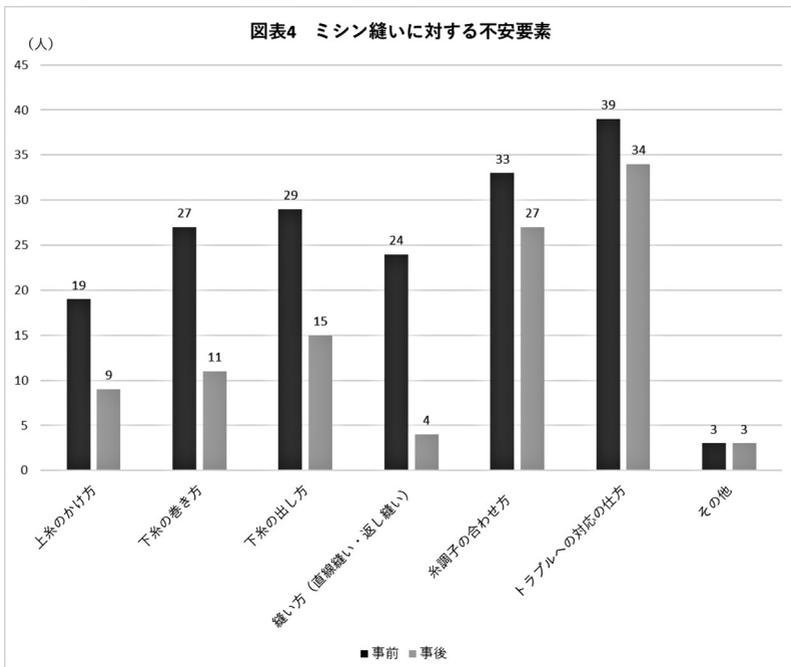


②ミシン縫い学習後のミシン縫いを担当することへの不安要素

ミシン縫いを担当することに対して不安が「かなりある」「少しある」と回答した40名に、具体的にどのようなことに対して不安があるかどうかを尋ねたところ(複数回答可)、「上糸のかけ方」9名、「下糸の巻き方」11名、「下糸の出し方」15名、「縫い方(直線縫い・返し縫い)」

4名、「上糸の調子が強い時・弱い時の糸調子の合わせ方」27名、「ミシンが動かない、縫い目が飛ぶなどのトラブルへの対応の仕方」34名、「その他」3名（「怪我を防ぐ方法」「ケガの心配」「児童が『先生これで合ってますか?』とたくさん聞いてくるときの対応が追い付かなくなりそう」）であった。

ミシン縫いを担当することに対する具体的な不安は全ての項目で減少しており、その中でも「上糸のかけ方」「下糸の巻き方」「下糸の出し方」「縫い方」についての不安は、実際に体験しながら確認することによって軽減されることが示された。「上糸の調子が強い時・弱い時の糸調子の合わせ方」「トラブルへの対応の仕方」についての不安は減少してはいるものの依然として多くの学生が挙げていた。ミシンに関して実際に起こる不具合は様々であり、その時々状況に応じた対応ができるかどうかということに不安を感じているように推察された。



### ③ミシン縫い学習後の感想

大学の授業でミシン縫い実習を体験して、課題や感想などを自由記述形式で尋ねた。以下抜粋する。

- ・小学生以来ミシンを触っていなかったので、授業で扱ってもらえてありがたかったです。トラブルへの対応が未だ不安ですが、やる前よりは上手くなったと思います。
- ・昔感じていた“難しい”というイメージが払拭されました。周りとの協力しながら教えたりなど楽しかったです。
- ・講義での説明だけを受けるより、実際に実習をすることでより理解がしやすかった。久々のミシンで忘れていたことも多々あったが、ミシンの使い方を再確認することができた。
- ・小学校の時は足で踏むシステムではなかったので、大学で初めてこのシステムをやって楽しかったです。この授業を受ける前はミシンを教えることに対して不安はあったけど、授業を受けその不安は解消されました！！
- ・久しぶりにミシンに触れて忘れていたこともあったが、思い出すことができて良かった。あと数回ミシンの授業をやりたかった。
- ・以前よりはミシンを使えるようになった。でもミシンに不具合が起こった場合など対応できるか不安だ。
- ・使い方の確認を先生に教えてもらいながらしたのでだいぶ不安要素がなくなりましたが、トラブルが生じたときの対処ができるか、となるとちょっと分からないです。
- ・上糸・下糸のかけ方はやはり複雑な為、分かりやすく指導することが難しいと感じました。
- ・下糸がからまったりし、少し戸惑ったのでこの経験を活かしてミシンで怪我や困ったりするようなことのないように教えていきたい。
- ・下糸を出すことを教えられるようになった。スクールサポート<sup>17</sup>のクラブの時間で、手芸クラブのサポートの時にミシンを教えること

ができた。

- ・昔学んだことをしっかりと復習できた。改めてミシンは安全に使うことができればとても便利な道具だと感じた。

実際にミシンを使いながらミシン縫いの基礎的事項を確認できたことが、学生たちのミシン縫いへの不安要素を減少させるために効果的であったことが見て取れた。ミシンの不具合やトラブルへの対応については、限られた時間数の中でどのように扱っていくかが今後の課題である。

## 4 おわりに

「家庭科教育法」の授業でミシン縫い学習を実施するにあたり、事前アンケートの結果をもとに学習内容を組み立て、事後アンケートの結果を検討したところ、次のことが明らかになった。

(1) 事前アンケートより、大学生は小学生の頃から現在に至るまで家庭科の授業以外でミシンに触れる機会は少なく、小学校の授業でミシン縫いを担当することに対して不安を抱いている学生が多くみられた。

(2) 「家庭科教育法」の授業3回分を用いてミシンの操作方法・基礎縫い学習と手縫いの基礎およびフェルトのカード入れの製作実習を行った。ミシン縫いに関しては全員が上糸と下糸の準備をしてから試し縫い、本縫いを行った。ミシン縫いはペア学習としたことでミシンの順番待ちを避けることができただけでなく操作方法や下糸が絡まるなどのトラブルに対しても互いに教え合い上手く対処していた。また、自分の苦手な所を何度も確認する学生が複数みられた。事前アンケートで具体的な不安要素を尋ねたことでミシン縫いに関する課題や練習するポイントが明確になったことを示しているのではないかと考えられる。

(3) 事後アンケートより、ミシン縫いを担当することに対する具体的な不安は全ての項目で減少しており、多くの学生にとって、実際にミシンを使いながら基礎的事項を確認していくことがミシン縫いへの不安要素や苦手意識を減少させるために効果的であった。

先行研究において、授業で実際に体験した技能については自信が付き、実際に体験しなかった技能については指導の自信が低いままであると指摘されている<sup>18</sup>が、本稿の検討でも、同様の傾向がみられた。大学生が不安に感じている技能については、説明だけでなく、実際に体験しながら学ぶことが重要であると思われる。

学生たちが依然として抱いている不安要素の「糸調子の合わせ方」や「トラブルへの対応の仕方」については学生の問題解決能力を育むことにもつながるため、授業の中でどのように取り扱っていくかを今後の課題としたい。

<sup>1</sup> 牧野カツコ他 2009年「座談会 これからの生活とライフスキル」牧野カツコ編 お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会著『家庭科の底力—作る手が子どもたちを輝かす—家庭科が育てるミニマム エッセンシャル・ライフスキル』地域教材社 pp.126-135

<sup>2</sup> 中間美砂子 1998年「子どもに託す生活の未来—家庭科教育—」日本家政学会編『日本人の生活—50年の軌跡と21世紀への展望—』建帛社 pp.268-272、柳昌子 2000年「家庭科教育と地域社会—子ども・地域の変化とかわる家庭科」日本家庭科教育学会編『家庭科教育50年 新たな軌跡に向けて』建帛社 p.213、日本家庭科教育学会編 2004年『家庭科で育つ子どもたちの力』明治図書 など

<sup>3</sup> 赤崎真弓 1996年「被服製作基礎技能に対する学生の自己評価と被服実習授業の検討」『長崎大学教育学部教科教育学研究報告』第26号 pp.111-122、布施谷節子 高部啓子 2001年「家政系女子短大生における手縫いの技能の実態—被服製作の知識と過去の経験との関連性—」『日本家庭科教育学会誌』第43巻第4号 pp.273-278、小林久美 柳昌子 2007年「小学校教員養成科目としての家庭科の課題(1)—基礎技能に関する調査を通して—」『九州女子大学紀要』第44巻第1号 pp.29-45、小林久美 柳昌子 2008年「小学校教員養成科目としての家庭科の課題(2)—衣の技能に関する実技調査を通して—」『九州女子大学紀要』第44巻第3号 pp.17-29、速水多佳子 黒光貴峰 2014年「大学生の家庭科における調理、被服製作の知識・技能の習得状況にみる課題」『日本家庭科教育学会誌』第57巻第1号 pp.14-21、福井典代 速水多佳子 2017年「大学生における基礎縫い技能の実態調査」日本家庭科教育学会第60回大会研究発表要旨集、大塚史恵 池崎喜美恵 鳴海多恵子 2017年「小学校から高等学校までの被服製作学習の実態と基礎的知識の定着の現状」日本家庭科教育学会第60回大会研究発表要旨集

<sup>4</sup> 山田智子 大坪智子 伊藤紀子 1993年「家庭科「衣生活」領域の指導内容に関する研究—被服製作技術について—」『鳥取大学教育学部研究報告 教育科学』第35巻第1号 pp.173-181、村田浩子 西岡敦子 2007年「家庭科教育における被服教育に関する一考察—家庭、学校における裁縫経験ともの作りに対する意識調査—」『幾中央大学短期大学部研究紀要』第28号 pp.37-45

<sup>5</sup>永田晴子 2003年「女子大学生の家庭科イメージの変化—教職課程履修者の場合—」『お茶の水女子大学人文科学紀要』第56巻 pp.263-284、藤田智子 2013年「大学生の「家庭科」に対するイメージにみる男女共修家庭科の意義と課題」『名古屋女子大学紀要（家政・自然編）』第59号 pp.1-12、室雅子 2014年「教員養成課程における大学生の家庭科観からみる家庭科教育の課題」『椋山女学園大学研究論集（社会科学篇）』第45号 pp.239-249、宇津野花陽 2017年「小学校教員養成課程における家庭科の指導方法・学習内容についての一考察」『白鷗大学教育学部論集』第11巻第2号 pp.417-429 など。

<sup>6</sup>文部科学省 2008年『小学校学習指導要領』

<sup>7</sup>佐藤加代子 植村千枝 1992年「茨城県における小学校家庭科担当教師の実態と問題点—裁縫ミシン指導を通して—」『教育研究所紀要』第24号 p.3、多々納道子 竹吉昭人 2006年「家庭科教員の指導実態からみた製作活動の教育的意義」『島根大学教育学部紀要（教育科学）』第39巻 p.20

<sup>8</sup>前掲「小学校教員養成課程における家庭科の指導方法・学習内容についての一考察」

<sup>9</sup>竹吉昭人 多々納道子 2005年「小学校家庭科における布を用いた製作活動の学びの実態」『島根大学教育臨床総合研究』第4号 pp.131-141、前掲「家庭科教員の指導実態からみた製作活動の教育的意義」pp.19-24

<sup>10</sup>前掲「茨城県における小学校家庭科担当教師の実態と問題点—裁縫ミシン指導を通して—」p.3

<sup>11</sup>植村千枝 佐藤加代子 1992年「小学校家庭科における裁縫ミシン指導の実態と問題点—家庭科担当教師の意識調査から—」『茨城大学教育学部紀要 教育科学』第41号 pp.187-192、三輪聖子、辻泰子、夫馬佳代子、西村敬子 2001年「家庭科教育における被服領域の現状と動向—被服製作の実態と意識—」『岐阜女子大学紀要』第30号 p.158

<sup>12</sup>前掲「小学校家庭科における裁縫ミシン指導の実態と問題点—家庭科担当教師の意識調査から—」p.181

<sup>13</sup>小林歩 伊藤圭子 2013年「家庭科における子どもの「つまずき」要因の検討—大学生の学習経験をもとに—」『初等教育カリキュラム研究』第1号 pp.69-79

<sup>14</sup>永田智子 鈴木千春 2014年「小学校家庭科教育研究指定校の教員が抱える不安」日本家庭科教育学会第57回大会研究発表要旨集

<sup>15</sup>永田智子 藤原容子 潮田ひとみ 2015年「ミシン使用の技能と指導の自信を高める初等教員養成課程『初等家庭科教育法』の工夫」日本家庭科教育学会第58回大会研究発表要旨集、永田智子 藤原容子 山本亜美 潮田ひとみ 2016年「ミシン縫いと手縫いの技能及び指導の自信を高める初等教員養成課程『初等家庭科教育法』の授業デザイン」日本家庭科教育学会第59回大会研究発表要旨集

<sup>16</sup>前掲「小学校教員養成課程における家庭科の指導方法・学習内容についての一考察」

<sup>17</sup>H大学のスクールサポートとは、学生が小中学校で児童生徒の学習活動や部活動等の支援をするシステムである。

<sup>18</sup>前掲「ミシン縫いと手縫いの技能及び指導の自信を高める初等教員養成課程『初等家庭科教育法』の授業デザイン」